

平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 (上賀茂小学校)

(1)「確かな学力」の育成に向けて

重点目標	
子どもたちに確かな学力を定着させるために、主体的に学べるような授業・学習環境を構築する。	
具体的な取組	
○主体的な学びの保障	
* 「つきたい力」「出口でのあるべき姿」を明確にする。	
* 「具体的なめあて」と「めあてに沿った振り返り」を連動させる。	
○普通授業の充実	
* 「確かな学習問題」「価値ある課題」を設定し、「問題解決型授業」の推進することで、楽しさや達成感を味わわせ、 <u>自ら学びに向かう力</u> を育む。	
○学力分析からの指導改善	
* 全国学力・学習状況調査、ジョイントプログラムの傾向を捉える。	
○図書館や ICT 機器の有効活用	
* 個に応じた課題解決学習・問題解決学習を推進する。	
○地域の人材・素材を生かした教育活動の展開	
* 思考力・判断力・表現力を育む。	
○自学自習の習慣づけ	
* 「めあて学習」を徹底して、家庭学習においても自分に合った <u>自学自習の習慣</u> を身に付けさせる。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○学校評価アンケート	
・ 学習 (授業) は よくわかりますか? ○学習中 進んで 発表していますか?	
・ 人の話をしっかり最後まで聞いていますか?	
・ お子さんには、家庭学習の習慣が身についていると思えますか?	
○ジョイントプログラムの結果	
・ 平日は授業以外に平均何時間勉強していますか?	
各種指標結果 (1 回目)	
○「進んで発表するようになったか」は、28 年度後期に比べて多くなったが、「学習がよくわかるか」は減っていた。特に低学年の「わからない」「あまりわからない」の割合が多かった。	
○家庭学習の時間は、全体的には長い児童が多いが、全くしないという児童もいる。	
自己評価	分析 (成果と課題)
	○校内研究で国語科の「話す・聞く」の力を伸ばすことに取り組んでいる成果として、積極的に自分の思いや考えを話す児童が多くなった。
	○プレジョイント・ジョイントとも全市平均を 4.4~7 ポイントほど上回った。特に算数の方が上回っているが、上位と下位との差が大きい。
	分析を踏まえた取組の改善
	○どの子にもわかる授業をめざし、具体物や ICT 機器を有効に生かした授業づくりに取り組む。
	○導入の工夫により、主体的に学習する意欲を高める。
	○課題を見つけ、解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、「学ぶ楽しさ」とともに「わかる楽しさ」が実感できる授業を実践する。

	○授業とつながった家庭学習（宿題）の積み上げ。基礎基本の定着の徹底。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○何事にも興味を持って、積極的に一生懸命取り組める子どもに育ってほしい。 ○地域の人材を活用した学習を進めていってほしい。農家の人など、専門家の話を聞くことは、新たな発見や興味・関心を高めることにつながる。学校運営協議会には学習支援部会があり、部会を通して地域人材を増やしていきたい。	
	評価日 10月17日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ○「進んで発表するようになったか」は、前期より肯定的な回答が少なくなったが、「学習がよくわかるか」には肯定的な回答が増えた。特に低学年に改善が見られた。 ○家庭学習の習慣は身に付いている児童が多いが、宿題が家でできにくい児童もいる。		
自己評価	分析（成果と課題） ○課題として提示したものについてはきちんと取り組み、最後まできちんとやり遂げようとする児童が多い。 ○自ら課題を設定し、探究心をもって課題解決を図っていかうとする、主体的な学習を進めていくことに物足りなさを感じられる。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○授業の中で子どもどうしが二人組・三人組や少人数グループで話し合う場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の更なる向上に向けて取組を充実させる。 ○言語活動に重点を置き、自分の思いや考えを生き生きと表現することに取り組んだ研究の成果を生かし、全教育課程において、培った力を活かした取組を進める。 ○家庭学習については、家庭への働きかけを積極的に行い、宿題の出し方や量についても見直していきたい。授業と家庭学習の連動。自主学習ノートの推進。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○地域の人材を活用し、多様な話を聞くことにより、児童の生き方探究につなげていきたい。 ○知識や技能が、実際の生活の中で有効に使えるようにする事も大切だ。 ○学校運営協議会の学習支援部会で「子どもたちに何ができるか」を話し合い、活動を充実させる。 ○児童全員が「わかった」と感じられる学習を進めていって欲しい。	
	評価日 2月15日	評価者 学校運営協議会

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	
人や地域との関わりの中で、感動する心を育てる。	
具体的な取組	
○規範意識の向上と実践的態度の育成	
＊「なぜ守らなければならないのか」を理解して行動する。	
＊学校のきまりを見直し、全教職員共通理解のもと、ねばり強く指導する。	
＊家庭や地域と連携して、「公共の精神」に基づく態度を育てる。	
○道徳教育の充実と実践的態度の育成	
＊道徳の時間を核として、学校教育全体で取り組む。(習得→実践→振り返り)	
＊子どもたちの心を揺さぶる授業を展開する。	
○感動体験発表の推進	
＊家庭や地域と連携して感動を引き出す取組を展開し、いろいろな場面で積極的に発信する。	
○自分を大切にし、人も大切にできる子どもの育成（人権教育）	
＊日々の小さな取組の中で見逃さずに認め、誉め、自尊感情と自己有用感を高める。	
＊支持的風土をもった学習集団を育てる。	
＊「いじめ」は絶対に許さない。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○学校評価アンケート	
・きまりをしっかり守っていますか？ ・友達や家族を大切にしていますか？	
・誰にでも元気よくあいさつできていますか？ ・自分には良いところがあると思いますか？	
道徳授業アンケート 振り返り	
各種指標結果（1回目）	
○元気にあいさつできる子が多くなった。	
○全校で学習や活動・体験したことについて、スピーチの取組を進めることで、子どもたちにとって思いや考えを発信するモデルにつながっている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	○昨年、今年と2年続けて「自分から気持ちのよいあいさつをしよう」取り組んでいることで、少しずつ成果が出てきている。
	○スピーチに関する指導が担任に任されているので、取組にばらつきがある。
	分析を踏まえた取組の改善
	○全校スピーチに向けて、学級や学年でどのように取組を進めていくのか系統化する。
	○児童会が主体となり、自分たちの生活を振り返り、学校生活をよりよくするための取組を進めていく。
	○道徳の授業を中心に、人権に関する授業を系統的に取り組む。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<p>○朝の見守り活動をしていると、元気にあいさつできる子が増えてきていることや、遅れてくる子が少なくなってきたことを感じる。</p> <p>○あいさつについては、家庭への働きかけが必要。ルールやマナーなど、社会に出た時に大切なことをテーマにした家庭教育学級の開催。</p> <p>○地域活動に取り組むことによって、人と人とのつながりを実感し、地域をよりよくする子どもの育成を図る。</p>	
	評価日 10月17日	評価者 学校運営協議会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>○「自分から気持ちのよいあいさつをしよう」は、後期になり、出来なかったと評価する児童が増えてしまった。</p> <p>○全学年でスピーチに取り組み、児童朝会で発表することにより、子どもたちのスピーチに対するこんな風に話せば相手に伝わるか、イメージを持つことができ、感想を言えるようにしっかり聞こうとする態度が身に付いてきた。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○学校の決まりや社会のルールを守る中で、友達の良さを見つけ、仲間を大切にして学校生活を送ろうとしている。各家庭での規範意識（決まりを守る心や態度）を育てる取組が、しっかりなされていることが根っことなり、成果として表れているように感じる。</p> <p>○課題としては、身の回りの物を大切にしたり、誰にでも元気よく挨拶したりして、より良好な社会生活を築いていこうとする意識をより一層育てる事が大切である。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○規範意識については、道徳を中心とした授業を通じて、自己有用感・自己肯定感を高められるようにしたい。○挨拶については、児童会・PTAとも連携して、「朝の声かけ運動」週間を実施し、児童が自発的に元気な声で挨拶ができるように取り組んでいきたい。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○見守り活動だけではなく、大人から積極的に声をかけ、あいさつをしていきたい。</p> <p>○学校運営協議会やPTAが主体となって、家庭の教育力を高める取組を考えていきたい。</p> <p>○全校の前で話す経験は、話すことへの自信にもつながり、取組を進めていってほしい。</p> <p>○学校内だけではなく、社会の中にある基本的なルールやマナーなどを守る子どもを育てる事に取り組んでいって欲しい。</p> <p>○地域を知り、地域で活動することが、地域やそこに住む人を大切にする事につながるのではないか。</p> <p>○命に触れたり、命を育てたりする体験が、豊かな心を育てる事につながると思う。</p>	
	評価日 2月15日	評価者 学校運営協議会

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	
健康や安全に関心をもち、命や体を大切にする児童を育成し、望ましい基本的生活習慣を形成する。	
具体的な取組	
○基礎体力の向上を目指す取組の推進	
＊子どもの運動量を十分に確保した体育科の授業を日々実践する。	
＊全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から見える課題の解決に向けた取組を体育的な活動に落とし込んで実践する。	
＊課外体育としての「部活動」の取組を精査・充実させる。	
○健康自立に向けた取組の推進	
＊自分の体や命の大切さを知る学習や活動を効果的に進め、自ら健康を保とうとする実践的態度を養う。	
＊「性教育」「保健学習」「安全教育」の一層の充実を図る。	
＊基本的生活習慣の確率に向けて家庭と連携する。	
○栄養教諭と連携して食育指導・栄養指導を効果的に仕組み、食に関する指導の充実を図る。	
＊食物アレルギー対策の研修を行い、全教職員の共通理解を図る。	
○安全教育・防災教育の充実	
＊地域と連携した防災教育を推進し、正しい知識と判断力を育成する。	
（取組結果を検証する）各種指標	
○学校評価アンケート	
・「早寝・早起き・朝ごはん」など、規則正しい生活はできていますか？	
・運動や外遊びを通して、体力づくりに取り組んでいますか？	
○全国体力運動能力調査の結果	
・体力テストの全国平均との比較	
各種指標結果（１回目）	
○〔児童質問紙〕では、夜遅くまで起きていたり、朝ごはんを食べないで学校に来たりする子どもの割合が、全国平均より高い。	
○運動・外遊びをする子としない子の差が大きい。また、男子より女子の方がしない子が多い。	
自己評価	分析（成果と課題）
	○どの学級も全員遊びの日を作っているが、その日以外は学校で外遊びをほとんどしない児童もいる。 ○地域のスポーツクラブ等が盛んで、参加している子はその種目の運動時間がとても多い。毎日同じ遊び（運動）をしていることが多く、多様な遊びに接し、遊び（運動）の幅を広げることが必要である。
分析を踏まえた取組の改善	
○遊びの要素を入れた運動遊びを学校生活に取り入れ、体育学習や学級遊びを通して、楽しみながら体力づくりに取り組むと共によりよい人間関係づくりを図る。	
○いろんな遊び方を紹介することで、多様な遊びに接するようにする。	
○保護者に「早寝・早起き・朝ごはん」と「適度で 多様な運動」の大切さを便りや講座を開くなどして積極的に伝える。	

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○生活習慣は、家庭の考え方やライフワークが大きく影響している。早く寝た方が良いとはわかっているけど、勉強・家族でテレビ・自分の部屋でゲームやケータイなど個々にしないわけがあるように思う。</p> <p>○地域内には、公園や川など遊べる場所が多く、家の中だけで遊ぶのではなく、自然に触れながら体を動かして遊んでほしい。</p> <p>○おやじの会などが多様な遊びができる「遊びの会」を計画し、広く参加を呼び掛ける。</p> <p>○学校内の運動環境整備を計画的に進める。</p>	
	評価日 10月17日	評価者 学校運営協議会
<p>各種指標結果（2回目）</p> <p>○「早寝・早起き・朝ごはん」の中で、「早寝」に課題があり、特に高学年では、いろいろな状況から早く寝ることが難しい児童の割合が多い。</p> <p>○特に高学年女子に、外遊びをほとんどしない児童が多くなる傾向がある。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○体力向上・早起きを目的とした朝マラソンを実施し、取組に参加した児童は、体力がついてきたと実感している。</p> <p>○全児童に、身体を動かすことの楽しさを実感できる取組を進めていかなければならない。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○基本的生活習慣の定着は、保護者の理解と協力が不可欠であり、保護者に対して「子どもの心と体の成長にとってはきちんとした生活習慣が大切である」という意識を高める働きかけをする。</p> <p>○基礎体力の向上に関しては、体育科の授業や児童会のたてわり活動、児童が楽しみながら活動する遊びの要素を持った運動などを通して運動量の確保をしていく。</p> <p>○体育・保健学習・食育の学習を通して、自らの健康・体力についての関心を高め、自己管理能力を育成する。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○「食」について、昔は家庭で教えていたが、今は学校の果たす役割が大きい。</p> <p>○地域で行っている防災訓練に参加する子どもが少ない。「上賀茂防災の日」の取組を充実させ、子どもたちの防災に対する意識を高めていって欲しい。</p> <p>○地域には公園も多く、遊ぶ環境としては整っている方だと思う。</p>	
	評価日 2月15日	評価者 学校運営協議会

(4) 学校独自の取組

重点目標	
小中 9 年間を通して、豊かな学びと育ちを保障し、自らの未来を切り拓く児童生徒を育成する。	
具体的な取組	
○小中一貫教育の推進 ＊ 6 年生の中学校体験を行い、小中の接続がスムーズに行われるようにする。 ＊ 地生連事業の小学生の中学校部活動体験「部活動探検隊」や「かもがわコンサート」に協力する。 ＊ 小中合同で標語コンクールを行い、中学校区の児童生徒の共通人権目標を共有する。 ＊ 小中教職員の合同研修会を行い、教職員の連携と情報交流を進める。(今年度は「道徳」) ＊ 小学校の活動を中学校に発信し、児童の様子を把握できるようにする。 ＊ 小中で連携してあいさつ運動を進める。 ＊ 小中合同主任研修会を実施していく。(特に外国語活動主任と道徳教育推進教師・道徳主任)	
(取組結果を検証する) 各種指標	
○小中及び保幼小連携教育の振り返り	
○家庭でも進んで読書していますか	
各種指標結果 (1 回目)	
○「道徳」に関する研修を小中合同で行い、授業あり方や進め方などを共通理解する場が持てた。 ○学校図書館を活用した授業を採り入れているので、家庭で読書・図書を活用した学習ができている子どもの割合が高い。	
自己評価	分析 (成果と課題) ○道徳の教科化に向けて意見交流し、評価をどのように進めていくのかについて深めていくことができた。 ○評価手順や視点のイメージを持つことができた。
	分析を踏まえた取組の改善 ○研修会だけではなく、小中及び保幼小で互いの活動・授業を見る機会を増やし、スムーズな学習の移行を図る。 ○保幼小中で『育てたい子ども像』について話し合い、一貫した取組・指導につなげる。 ○部活体験や幼小交流活動について、計画の段階で話し合うことによってよりよい取組にする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○地域の学校園が連携し、子どものよりよい育成に取り組んでほしい。 ○地域の行事や取組に積極的に参加してほしい。 ○小学校で実施している「上賀茂ジュニア検定」を保育園・幼稚園や中学校でも出来ないだろうか。 ○学校図書館を地域に開くことができないだろうか。 ○保幼小中が参加する「夏祭り」「ふれあいコンサート」などを地域でも支援していきたい。
	評価日 10月17日
	評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2 回目)	
○道徳の評価について、小中で交流した事はとても有効だった。	
○上賀茂幼稚園の授業研究会に参加し、幼稚園での取組のねらいや考えを聞き、理解が深まった。	

自己評価	分析（成果と課題） ○幼稚園の授業研究会は、授業時間の違いから全教職員が参加するのは難しい。 ○道徳の授業の発問の仕方、進め方、評価について、研修を重ね、深めていく必要がある。	
	分析を踏まえた取組の改善 ○幼稚園の授業を見る機会を増やし、全教職員が年に１回は参加できるようにしたい。 ○道徳や外国語について、主任同士の情報交換を全体に広げる機会を設定する。 ○他の活動との関連を図り、実践活動や体験活動を取り入れ、道徳的な価値の理解を深める指導の充実を図る。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○地域に開かれた図書館にすれば、親子で利用でき、読書活動の習慣化につながるのではないか。 ○地域の子どもたちのために、いろいろなイベントを実施して、積極的に協力をしていきたい。 ○地域を素材にし、小中の児童生徒が助け合いながら活動する取組を進める。 ○地域の保育園・幼稚園・中学校と合同で研修し、取組を交流することは、つながりを持って子どもを育てる事に繋がり、とても良い事だと思う。	
	評価日 ２月１５日	評価者 学校運営協議会